

令和4年度小平市立小平第五小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

「話すこと、聞くこと」以外は、全国平均と東京都平均を大きく上回っている。中でも、「言語文化に関する事項」は、正答率が85ポイント以上であった。「書くこと」については、東京都平均を上回っているが、記述式問題での正答率が低い。

課題

記述式問題の「文章を書く」「漢字を使って書き直す」問題で無回答率が高いことが分かった。目的や意図に応じた作文や正しい漢字表記の力をより一層身に付ける指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

朝学習や宿題を活用し、日記やはがき新聞など短い文章を書くことを継続的に取り組み、書くことに慣れるようにする。その上で、自分の考えが明確に伝わる作文の力を付けられるように指導していく。漢字の広場などを利用し、既習漢字を文脈に合わせて正しく書く練習を繰り返し行っていく。

【算数】

状況の分析

全ての項目で全国平均・東京都平均を上回っている。特に、「図形」の正答率は都と比べて4ポイント高くなっている。また、問題形式が短答式の正答率が84ポイント以上である。一方、選択式の問題になると、58ポイントと記述式よりも低い。

課題

学習領域では、3領域の正答率が70ポイント台であるのに対し、「変化と関係」は61.5ポイントで最も低い。数量の関係や意味についても基本的な力を定着させるとともに、立式の根拠や求め方を文章で説明する力を一層高める指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

立式の根拠や求め方の考え方を図や文章で表す場面をどの指導でも取り入れ、ペアや集団での検討の中で個々の発表時間をできる限り設定する。自分の言葉で説明し、自分の考え方・説明の仕方と他者の考えを比べて相違点を気付かせる指導を丁寧に行う。

図や式を用いて2つの数量の関係に着目し、数量同士の比べ方や表し方を考える力や割合の理解を深めることで、その考察を問題解決や日常生活に生かそうとする態度も育てていく。

【理科】

状況の分析

課題

学習指導領域の「エネルギー」「生命」「地球」の領域以外は、全国・東京都平均を3ポイント以上上回っている。しかし、知識・技能に関する問題は、正答率が下がっている。

「粒子」を柱とする領域の知識・技能や思考・判断・表現の問題に対する正答率が低い。実験器具の正しい使い方への理解を徹底する必要がある。また、実験結果を基に自分の考えを記述する力を高めていく指導を要する。

学校で取り組む具体的な改善策

児童が興味・関心をもち、意欲的に取り組める授業の計画を重視していく。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4つの学習領域については、科学的用語を授業の中で確実に定着させるとともに、単元末で学習内容の振り返りをさせる必要がある。また、実験の結果から問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもって記述できる力を育てるために、考察の書き方のヒントカード等を活用しながら指導していく。

【質問紙】

状況の分析

課題

全体的に「当てはまる」と回答する割合が全国平均より低い。「どちらかといえば当てはまる」の割合は高い。自分自身に関する質問では、「将来の夢や目標をはっきり持っている」児童の割合が85%で高い。また、「人の役に立つ人間になりたい」と思う割合も東京都平均より高い。「学校の授業以外に学習する時間」は30%と低い。読書は好きだが、習慣的に読んでいる割合は低い。

自己肯定感が高い傾向にあるが、学校生活を楽しんでいる児童は全国・東京都の平均より少し低い。学校での友人や教師との関わりを大切にすることを環境を作っていきたい。学校でICT活用を積極的に活用できる児童が90%と高い。家庭学習においてもさらに活用させていく。

学校で取り組む具体的な改善策

本学年の不登校傾向にある児童に対して、個別対応を通して教室に入ったり学年行事に参加したりできる児童が増えているため、今後も継続したい。ICT活用が盛んに行われている半面、SNSを使用する際の家庭でのルール作りは今後のICT活用にも直結しているため、徹底を促していく必要がある。保護者会や個人面談、お便り等で呼びかけを継続する。

将来に関することでは、キャリア教育を通して、実際に働いている方の話を聞いたり、SDGsに取り組む企業の話の聞いたりする場をもつことで、自分自身や将来について見つめるきっかけとしていきたい。チャレンジ精神や自己肯定感を高めていくために、行事や縦割り活動等の特別活動の時間を計画的に実施し、自己の振り返りを丁寧に行っていく。